

地域を守る防災林を保全し将来に残す！

○ 活動の経緯と目的 ○

清流海部川の河口に位置する大里地区は、太平洋に面した砂浜が続く農村地域です。大里松原といわれる松林は海岸に約4km、面積26ha、樹齢は200年になるものもあるとのことで、台風時の暴風や飛砂、塩害等を防ぐ「潮害防備保安林」として、災害から地域住民の生命や財産を守る働きを担ってきました。また、日本の白砂青松百選にも選ばれた自然豊かな松林は地元住民のレクリエーションや憩いの場にもなっています。



大里松原海岸

この松林は、かつて松葉や雑木の薪等は燃料としても重宝され、日常的に松林内の整備が行われていました。しかし、松食い虫による松枯れの影響を強く受ける中今や燃料にも使われない約10万本のクロマツを保全し、かつての美しい松林を維持することは非常に難しくなっています。

そこで、大里部落では、先達から受け継いだ大切な松林の持続的な保全管理を実施するため、本交付金を活用した里山林保全活動を平成25年度から開始、現在も継続中です。

○ 現在の活動内容 ○

松枯れを防ぎ景観の良い松林を維持するために、雑草木の刈り払いやつる切り、倒木や枯損木の伐採、伐採木の整理等の作業を初夏と秋の年間2期に分けて行っています。年間で20日程度の作業日を設け、1回あたり15～18名程度が作業を行います。

交付金を活用することで、地域住民のボランティア作業だけでは行き届かない広範囲にわたる継続的な整備作業が実現できています。

また、地元の子供たちとともに松の育苗・植樹活動にも取り組んでいます。ただ、松の生育には時間がかかり、枯れた松の数の半分ほどしか植林できないのが残念なところです。



作業をする大里部落の皆さん



枯損木の伐採



雑草木の刈払い

○ 今後の活動について ○

今年は大型台風の直撃を三回も受け、松林にも枝の落下や倒木などの大きな被害が出ました。しかし、住宅や農地への暴風雨の被害は少なく、この松林の持つ防災機能が確実に発揮されたことを実感しました。

私たちは、この大里松原が果たしてきた優れた役割を広く伝え、美しい松林の保全活動を次世代に引き継いでいくことを意識しながら、今後も継続的に活動を続けていきたいと思っています。



植樹したクロマツ